

は し が き

今年度も研究概要をまとめる時期となりました。数年来、医学部を挙げて取り組んできた、原爆後障害医療研究施設の改組の概算要求が、文部省、大蔵省の承認を受け1997年度から実現の見通しとなりました。原爆被災学術資料センターもこの改組に組み込まれることとなったため、センターとしての研究概要の報告はこれが最後のものとなります。これまで組織機構としては、医学部に並列的に直屬してきた原研とセンターが、文字どおり一体化して新しい大部門制の原研に脱皮します。これは国際化する放射線被曝の後障害研究の発展と、分子生物学的方法の急速の進歩による遺伝子レベルの研究を推進することを目的とした機構改革であります。長崎大学医学部の21世紀をにらんだ将来構想の一部が、ここに実現することはまことに喜ばしい限りです。これまでのセンターの業務、研究の推進に永年にわたって献身されてきた職員各位に厚くお礼を申し上げますとともに、さらに発展的に新組織に移行して、それぞれの分野で活躍されることをお願いしたいと思います。またこれまでにセンターの運営に多大な御支援をいただいていた、長崎市原爆被爆対策部、長崎原爆被爆者対策協議会をはじめとする多くの機関に対して心より御礼を申し上げます。原爆被爆者の医療に携わっておられる全ての方々の今後の御発展を祈念して、センター職員一同と共に最後のご挨拶とさせていただきます。

原爆被災学術資料センター長 朝長 万左男